

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）

法律学科 出題意図

法律学科で学ぶために必要な、基礎的な知識および論理的な説明力を備えているか問うための問題である。法律は基本的に人権を保障するためにあること、しかしときとして人権を侵害するような法律がある場合、裁判所によって違憲判決が出されるなど、法律の基本的な知識について、論理的に考察し、説明できる人物であるか判断する材料とした。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期） 法律学科 出題意図

今回の小論文の出題では、法律学科のアドミッション・ポリシーの①から③すべてにあてはまる人物かどうかを判断することに、そのねらいがあります。

この出題内容では、まず、志願者が、比較的身近な人権に関わる現代社会の課題に関心をもっているかが問われます。

その上で、出題のテーマに関する多様な意見を整理・検討することができるか、また、起こりうる問題を幅広く想定することができるかを見ることによって、物事を柔軟かつ論理的に考えることができる人物であるかを判断する材料とします。

そして、それらを論理的に説明することを通じて、他者の見解をまとめる力だけでなく、自身の見解を自らの言葉で的確に表現し、展開する能力を備えた人物であるかが問われることとなります。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期)
地域行政学科 出題意図

今年度の小論文試験は、上記の本学科アドミッションポリシーのうち、とくに3,4に関連する問題を扱っています。少子化対策として結婚支援を行うことが国レベルで検討され、また、自治体レベルではすでにそうした支援が実施されている例もあります。しかし、これは結婚という個人の自由や価値観に関わる領域に行政が過度に介入することだという意見もあります。少子化対策としての結婚支援という考え方を切り口に行政のあり方について考察してもらうことを狙いとしています。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)
地域行政学科 出題意図

沖縄および日本全体が抱える社会的課題について一定の認識ができているか。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
経済学科 出題意図

本小論文は、受験者が経済学科において学ぶ上で必要と考えられる以下の資質や力をどの程度有しているのかについて確かめることを狙いとしている。

- 1 普段から身のまわりの経済現象に関心を払い、地域の経済的課題を認識しているか (AP の 1、2、3、5 に関連)
- 2 その課題についての解決策を自分なりに考え、提示することができるか (AP の 1、2、3、4 に関連)
- 3 問題の意図を正しく把握し、他人に伝わる明瞭な文章で論理的に表現することができるか (AP の 3、5 に関連)

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験(前期)

地域環境政策学科 出題意図

【出題の意図】

この小論文課題は、志願者が地域の環境課題に対する関心と理解力、そして課題解決への意欲と論理的思考力をどの程度持っているかを評価することを目的としています。

(1) 地域課題への関心と理解

志願者が、世界自然遺産登録地における観光と自然環境の関係について、どの程度の関心と理解力を持っているかを確認します。

沖縄島北部や西表島などの世界自然遺産登録地では、観光客の増加に伴い、交通量の増加によるロードキル・騒音や排気ガスの増加、ゴミの増加、密猟、希少な動植物の生息環境の破壊、登山道や海岸の踏み荒らしなど、様々な自然環境への負の影響が懸念されています。志願者がこうした具体的な事例を挙げて説明できるかを見ます。

(2) 論理的思考と課題解決力

各問題に対して、原因や背景を論理的に分析し、現実的かつ持続可能な解決策を提案できるかを確認します。解決策には、観光客などにロードキル防止や減速を促す看板の設置、観光業者や観光客への環境保全に関する教育や啓発活動、密猟防止のためのパトロール、観光客の受け入れ人数の制限、エコツーリズムの推進、地域住民や観光業者との協働、法制度の整備など、多様な視点からのアプローチが求められます。単なる理想論ではなく、地域性や実現可能性を踏まえた提案が重要です。

(3) 地域環境政策学科との関連性

本学科では、地域と環境を経済の視点から捉え、持続可能な社会の構築を目指す人材を育成しています。観光による経済的利益と自然環境保全の両立という難しい問題に向き合い、地域の現場に根ざした課題を発見し、主体的に取り組む姿勢を持っているかを判断するための設問です。世界自然遺産登録地における課題は、地域経済と環境政策が交わる領域に位置し、本学科の学びと深く結びついています。

これらの視点から、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に志願者が合致しているかを判断します。

【その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)】

評価ポイントは、次のとおりです。①世界自然遺産登録による「自然環境への負の影響」を具体的かつ的確に把握していますか。②問題の原因・影響・関係者の視点を踏まえた論理的な説明ができていますか。③解決策が現実的で、持続可能性や地域性を考慮していますか。④小論文全体の構成力、文章力、そして、問題解決に向けての意欲がありますか。

なお、以下の場合、減点となります。①問題の説明が抽象的で、地域性が不明確な場合。②解決策が表面的で、実現可能性や持続可能性に欠ける場合。③文字数不足、誤字脱字、小論文の構成の乱れ。

世界自然遺産登録地に関する課題については、新聞などのメディアで取り上げられることも多いです。他の環境問題と同様に新聞やテレビニュースなどからの情報について、意識的に関心を持つことが重要です。また、志願者自身が地域の現場に即した解決策を導き出すためには、世界や地域社会への理解と関心が不可欠です。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験(後期)

地域環境政策学科 出題意図

【出題の意図】

この小論文課題は、志願者が地域の環境課題に対する関心と理解力、そして課題解決への意欲と論理的思考力をどの程度持っているのかを評価することを目的としています。

(1) 地域課題への関心と理解

この小論文課題では、日本国内で沖縄県にのみ生息するジュゴンという希少な海生哺乳類を題材に、志願者が地域の環境課題と文化的資源に対してどの程度の関心と理解力を持っているのかを確認します。

ジュゴンは、沖縄の海洋文化や信仰と深く結びついた存在であり、今帰仁村の古宇利島の伝説などに象徴されるように、地域住民の精神的・文化的アイデンティティにも関わっています。一方で、戦後の乱獲、埋め立てを始めとする沿岸開発、騒音、海洋汚染などの人間活動によって生息環境が悪化し、絶滅危惧種として複数のレッドリストに掲載されています。

志願者が、ジュゴンの生態的・文化的価値を理解し、絶滅の可能性とその責任について主体的に考察できるのかを見ます。

(2) 論理的思考と課題解決力

設問①では、「自然の摂理」としての絶滅と、人間活動による絶滅の違いを踏まえた上で、沖縄県民や日本人がジュゴンの保護に対してどのような責任を持つべきかを論理的に考察する力が問われます。科学的・倫理的・社会的な視点を交えて、自らの立場を明確にし、説得力のある理由を示すことが求められます。

設問②では、ジュゴンの文化的価値を次世代に継承する必要性について、自らの考えを述べるとともに、地域文化の保全、教育、観光、アイデンティティ形成などの観点から、継承の意義や方法を具体的に論じる力が問われます。

いずれの設問も、単なる感情的な主張ではなく、根拠に基づいた論理的な構成が重要です。

(3) 地域環境政策学科との関連性

本学科では、地域と環境を経済の視点から捉え、持続可能な社会の構築を担える人財を育成しています。ジュゴンの保護は、環境政策、文化政策、地域経済、観光振興などが交差する複合的な課題であり、地域資源の価値を多面的に捉える力が求められます。

この課題を通じて、志願者が地域の現場に根ざした課題に対して主体的に取り組む姿勢を持っているのか、また本学科のアドミッション・ポリシーに合致しているのかを判断します。

【その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)】

評価ポイントは、次のとおりです。①ジュゴンの生態的・文化的価値を具体的かつ的確に把握していますか。②絶滅の要因と責任について、論理的かつ多面的に考察できていますか。③継承の必要性について、地域性や持続可能性を踏まえた提案ができていますか。④小論文全体の構成力、文章力、そして、問題解決に向けての意欲がありますか。

なお、以下の場合には、減点となります。①問題の説明が抽象的で、地域性が不明確な場合。②主張に根拠が乏しく、論理性に欠ける場合。③文字数不足、誤字脱字、小論文の構成の乱れ。

ジュゴンに関する課題は、沖縄の地域性と環境政策、文化政策が交わる重要なテーマです。新聞やテレビ、地域の資料などから情報を得て、日頃から関心を持つことが重要です。志願者自身が地域の現場に即した解決策や継承の方法を導き出すためには、地域社会への理解を深め、地域づくりの担い手としての責任感の意識を育んでいく日々の努力が求められます。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）

企業システム学科 出題意図

本設問は、商品導入を想定し、市場分析と STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）の観点から課題を発見・分析する力と、学修計画と将来キャリアを一貫して結び付けて説明する力を評価する。実務への接続性を重視し、企業システム学科アドミッション・ポリシーとの適合度も測定する。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)

企業システム学科 出題意図

本小論文の質問は、急速に進展する AI (人工知能) 技術がもたらす経済的・社会的インパクトを多面的に理解し、受験者が科学技術の進歩とビジネス環境との関係を自らの視点で論理的に考察できるかを評価することを目的とする。

AI 技術は、生産性の向上、意思決定の効率化、新産業の創出など、グローバル経済に肯定的な影響をもたらす一方で、雇用構造の変化、倫理的課題、情報格差の拡大などの否定的影響も引き起こすと言われている。本問題では、こうした両側面を理解したうえで、受験者が自らの問題意識をもとに、今後の日本企業が直面する課題をどのように捉えるかを論述する力を確認する。

総合的に、AI をめぐる現代社会の変化を素材として、受験者の時事的関心、論理的思考、判断力、そして将来の学びへの応用力を総合的に評価する。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
産業情報学科 出題意図

本試験は、志願者が産業情報学科のもとめる人物にあてはまるかを判断するねらいがあります。

人手不足に対する懸念は業界をとわず、大きな問題となっています。今回の小論文の出題は、産業界で話題となっている内容への関心の高さを問う内容となっています。また、IT 活用に関するアイデアと IT 活用だけでは解決できないことを論理的に説明できるかを確認するねらいもあります。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)

産業情報学科 出題意図

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」などの実学分野に幅広く興味・関心を持ち、それらを深く学ぶための基礎的な知識や学力を身につけた人、科学的・論理的に課題を捉えて解決しようとする人、そして大学生活で自ら進んで学びを深め、他者と協働しながらコミュニケーション力を高められる人を求めています。

このような人物像を踏まえ、今回の試験では、IoT (Internet of Things) という先端技術をテーマに、沖縄県の地域観光にどのように活用できるかについて検討してもらいました。具体的な事例を挙げながら、観光客の利便性向上、地域資源の効果的活用、観光データの収集と分析の観点から、新たな価値やサービスをどのように生み出せるかを検討してもらいました。

IoT によるセンサー、ネットワーク、クラウドサービスなどの技術を、観光地の案内や移動支援、混雑状況の把握、地域資源の魅力発信といった具体的な取り組みと結びつけて論じることができているかで、情報技術への興味・理解度を評価しました。また、IoT 活用が地域経済の活性化や観光産業の発展にどのように繋がるかを想像し、新たなビジネスやサービスへと発展させる発想ができているかで、ビジネス的視点や社会的な視野を評価しました。さらに、技術導入の利点だけでなく課題にも触れ、具体的な解決策や実現可能性を踏まえて筋道立てて述べているかを通して、論理的思考力と創造力を総合的に評価しました。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期・後期) 日本文化学科 出題意図

日本文化学科の編入試験では、アドミッション・ポリシーの1にある「言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーション」という3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は、前期入試では、「言語学」をテーマとして「日本文化」や「コミュニケーション」にも関わりをもつ課題文を、後期入試では、「国語教育」と「文学」に関わりのある課題文を出題しました。アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期)

英米言語文化学科 出題意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、パリ五輪新種目「ブレイキン」について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)

英米言語文化学科 出題意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、責任ある旅行者について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期） 社会文化学科 出題意図

社会文化学科の「人材の養成及び教育研究上の目的」は「比較文化的観点に立脚し、フィールドワークに基づいた南島地域研究を教育研究上の目的とし、地域理解能力と社会的コミュニケーション能力に長けた、問題解決型の人材を養成する」となっています。したがって、編入学者選抜試験で社会文化学科を志望する方には、「南島地域研究」を進め、「地域理解能力」を修得するための基礎的な学力や視点が備わっているかを確認する必要があります。

そのため、今回の小論文試験では、「沖縄観光産業」を事例として、「南島地域」に対する関心、学科で専攻しようとする諸学問に基づいて分析する力、分析した結果を論理的に表現する力を確認することを目的として、本問を出題しました。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期） 社会文化学科 出題意図

2025 年度編入学者選抜試験の小論文課題の意図は、社会文化学科のアドミッション・ポリシーのうち、1～3で示された諸要素の有無を判断することを目的としています。本学科は、沖縄の歴史・文化・社会を総合的に学ぶという特色を持っていますが、同時にその学びを沖縄内にとどめるのではなく、広く世界の動向や諸問題とのかかわりの中で沖縄を考える重要性についても打ち出しています。

これを受けて、今回の小論文課題では、沖縄の歴史・文化・社会のなかで自身がどの程度の理解と関心を持ち、何のテーマを課題として捉えているか、また、それらを日本との比較の中で位置づけられるか、という基礎的な学力と思考力を確認するために出題しています。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期)

人間福祉学科社会福祉専攻 出題意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの試験評価の指標「3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「4.社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か」を確認することを意図した出題となっています。特に、受験生が少子高齢・人口減少社会の現状や専門職者の動向、社会福祉サービスの質向上等々についてどの程度関心をもち、社会福祉の視点を意識しながら自らの意見を整理して論述することができるかを評価します。

以上の具体的な設題を通して、同ポリシー「I.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物」かどうかを確認することを意図しています。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)

人間福祉学科社会福祉専攻 出題意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの試験評価の指標「1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か」、「3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、および「5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か」を確認するための出題となっています。社会や教育、そして福祉に関する事象への関心と自らの意見の構築、それを整理して記述する能力を評価するものです。アドミッションポリシーの「I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物」および「II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」を確認することを意図した問題となっています。

【その他特記事項 (評価のポイント・アドバイスなど)】

1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の3点が評価のポイントとなっています。

- ①日頃から社会問題や社会福祉、あるいはその関連領域の諸問題に関心をもっているか。
- ②若い世代がこれから対峙するであろうと思われる少子化問題について十分に理解しているか、その問題に対する解決としてどのようなことが言われているのかを把握できているか。
- ③それらをふまえ、どのような意見をもっているのか。その意見を、理解している状況と共に論理的に展開し、説明することができるか。

2) アドバイス

日頃から社会で起きている出来事やニュースに対して関心をもち、それらに関連する新聞記事や文献を読んだり、ことなる立場の人たちと会話することで自身の知識や理解がすすんでいくでしょう。日記などのかたちで、社会で起きたことや自分の身の回りで経験したことを関連づけて、「綴っていく」ことを習慣化していくことで、理解や意見が整理されていくものです。そのような作業が定着することで、あらゆるジャンルの社会問題・現象に関する小論文へのハードルがさがっていくと考えられます。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
人間福祉学科心理カウンセリング専攻 出題意図

〔出題の意図〕

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの1.にある、心理学は「人間の『こころと行動』および『人と人のつながり』について科学的視点から学び、研究する、学問であることについて、どの程度理解しているのかを判断するための問題となっています。心理学の研究法を含む基礎的な知識を自分で調べられているか、心理学の研究法についての基本的な知識を説明できているか、心理学が科学的な視点による「研究を通して心や行動を理解する」学問であることを理解し、そのことについての自分の考えを論理的な文章で説明できているか、を評価しています。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期） 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 出題意図

〔出題の意図〕

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも特に1.にあるように、心理学という学問が人間の「こころと行動」や「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶものであるということについて、どの程度理解を深められているかを評価することです。具体的には、心理学がどのような学問であるかについての基礎知識を、自分で調べてある程度理解しており、それを論理的な文章で説明できるか評価するという意図がありました。

〔評価のポイント〕

- ・具体的な心理学の研究手法を挙げているか。
- ・客観的なデータに基づいて人の心と行動について研究するという趣旨が述べられているか。